



7月5日

ウミガメを通じて海洋環境を学ぶ



国東高校のエコ委員会が中心となり、ウミガメの保護活動をしている「国東市手と手とまちづくりたい」副代表の海原明子さんを招き、海洋環境について学びました。国東半島へのウミガメの上陸状況やウミガメ保護のためにしている活動内容について講演を聞き、生徒達はウミガメが産卵によく訪れる黒津崎海岸をきれいにしようと、7月22日に「国東市手と手とまちづくりたい」と国東市役所の職員ら約300名で海岸清掃をしました。生徒達は、産卵シーズンが終わる8月中旬までに訪れることを願いながらゴミを拾っていました。



7月29日、国東町の羽田海岸で産卵の跡が発見されました。浸水を防ぐため高台へ移設する際、110個の卵が確認されました。



7月10日

複数のイベントで七島蘭の日を盛り上げる

大分空港と七島蘭学舎、国東半島アンテナショップ「クワトロヨッチ」で、七島イのPRイベントが開催されました。このイベントは、国東市特産の七島イをPRするため昨年10月8日に記念日登録した「くにさき七島蘭の日(7月10日)」を広く周知するために行われたものです。

大分空港では、国東市商工会女性部のみなさんが、ゴールデンウィーク明けから準備した七島イ製のミサンガ300本を空港利用者に配布しました。

七島蘭学舎では、国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会の林浩昭会長が、「七島イ栽培が国東市に根付いた理由や七島イが世界中に広まっていく可能性があること」について講演をしました。

クワトロヨッチでは、七島イ工芸士の岩切千佳さんによる七島イのリース作りとコースター作りが開催され、福岡の方たちに七島イの感触を楽しんでもらいました。

この日は、その他にも大分県立美術館や大分農業文化公園でも七島イに関連したイベントが開催されており、七島イを広く周知できた1日となりました。



6月28日

安岐中央小の児童が七島イ栽培に挑戦



安岐中央小学校の5年生40名は、国東市特産の七島イを学ぶために苗の植え付け作業をしました。この取り組みは、児童が伝統作物を学ぶ機会になればと、農家や工芸士などの有志と共同企画したものです。児童たちは、用意された3つの土から好きなものを選び、土の種類が成長にどのような影響を与えるのかを観察していきます。夏休みの間は、鉢を自宅に持ち帰って観察を続け、夏休み明けに農家に報告する予定です。



6月26日

吉松あじさい祭り



安岐町の吉松本谷集落センターで、吉松あじさい祭りが開催されました。三河市長と国東市医療保健課の古庄康子係長の講演の後、あじさいレディースによるあじさい音頭が披露されました。続いて行われた昼食会では、吉松地区にある「安岐ファーム」から提供された豚肉「桜王」を味わいながら親睦を深めました。



7月15日

武蔵中の生徒が郷土料理に挑戦

武蔵中学校の2年生24名が、シイタケを使った郷土料理作りを体験しました。この日使うシイタケは、以前職場体験をさせてもらった武蔵町吉広の清原米蔵さんから提供されたものです。食生活改善推進協議会武蔵支部「健やか会」のみなさんにも協力していただき、完成した「だんご汁」は格別な味わい。今まで学んできた世界農業遺産のことも再確認しました。



7月19日



安岐町天神社 願相撲

安岐町塩屋の天神社で、願相撲が行われました。願相撲は、約300年前に虫送りの願掛けで相撲を奉納したのが始まりで、毎年7月19日に開催されています。この日も、地元の子供も参加し、熱戦を繰り広げました。優勝して大関になった宮本遼斗くん(安岐小5年生)は、「6年生に勝って、初めて大関になれてうれしいです」と喜びを語ってくれました。



大関の宮本遼斗くん

7月3日



ペトロカスイ岐部殉教祭

国見町のみんななかんで、ペトロカスイ岐部殉教祭が開催されました。大分県立先哲資料館の大津祐司さんが「大友宗麟とキリシタン文化」について講演しました。続いて行われたミサで、ペトロカスイ岐部神父に祈りを捧げました。今回は、さ吉くんバスツアーのコースにも組み込まれており、参加者21名は殉教祭や伝キリシタン遺跡の散策を楽しんでいました。



7月14日

国東市の将来について国高生と市長が語り合う

国東高校の大会議室で、国東高校の生徒52名と国東市長の座談会が行われました。この座談会は、市長が国東市の将来を担う国東高校生の意見を直に聞きたいと昨年に続いて開催。生徒達は、市の現状や施策について質問した後、「帰宅時の路線バスの便数不足」や「娯楽施設が欲しい」、「電車をつなげて欲しい」など、今感じていることを市長に伝えました。

